

## 【W3】「困難を抱える子どもたちの心に対する治療と支援を考える～児童精神科外来診療を通じて～」

【講師】下出 崇輝

### 【要旨本文】

本講習においては児童精神科医である演者が児童青年期の精神科外来診療（以下、児童精神科外来診療）について治療・連携システム、子どものこころのトラブルサインとそれらの対応・支援方法について説明する。また神経発達症（発達障害）の診断・支援・治療について説明をする。加えて、新型コロナウイルス感染拡大や昨今の社会情勢が子ども達へ与える影響について臨床医の立場から考察を述べる。さらに、児童精神科領域における音楽療法への期待についても考察を述べる。

精神疾患治療においては、必ず最初に外来診療を行う必要がある。正確な診断が第一の基本にあり、その後重症度の判定、重症や必要性に応じて入院治療について検討していく流れとなる。アセスメントや診断、治療重要性のトリアージ等において、外来診療はその第一歩として重要な役割を担っている。近年、我が国における児童青年期の精神疾患患者数は増加の一途を辿っており、児童青年期の精神科外来診療へのニーズは日に日に高まっている。しかし、日本児童青年精神医学会の認定医数は充足しているとはいえ、早く受診をする必要があるにも関わらず、何か月も受診を待つといった初診までの待機期間が社会的な問題となっている。1日でもその待機期間を短縮するために、児童青年期を専門としない一般精神科医が児童青年期の診療を必要最低限行うことができる「対応医育成」システムの構築、その整備に取り組む大学病院や精神科病院は徐々に増え、その取り組みは拡がりつつある。しかし、依然として子どもたちや親たちにとり厳しい医療状況であることに変わりはない。児童青年期の精神科外来診療へのニーズに対応すべく、様々な役割を持った医療機関が各々の立場で児童精神科外来診療に携わることが重要と考えられる。

前記した様に、本講習では児童精神科外来診療に従事する立場から、その実情や日々感じる困難、喜び、やりがいについて述べさせていただきながら、困難を抱える子どもたちの心に対してどのような治療と支援が可能であるか、皆様と一緒に考えていきたい。

### 【講師プロフィール】

札幌市出身。2013年 埼玉医科大学医学部医学科卒業。2019年 埼玉医科大学大学院博士課程修了。埼玉医科大学病院神経精神科にて主に精神科救急・児童精神科医療に従事した後に、2022年4月 しもでメンタルクリニック平岸分院を開業。同院では精神科・児童精神科を標榜し、子どもから大人まで幅広い年代の患者さんの診療に従事している。